

A-01ED0242

P-872

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-238689

(43)Date of publication of application : 08.09.1998

(51)Int.Cl.

F16L 57/00

(21)Application number : 09-044164

(71)Applicant : TOFLE KK
EMIFLEX SPA

(22)Date of filing : 27.02.1997

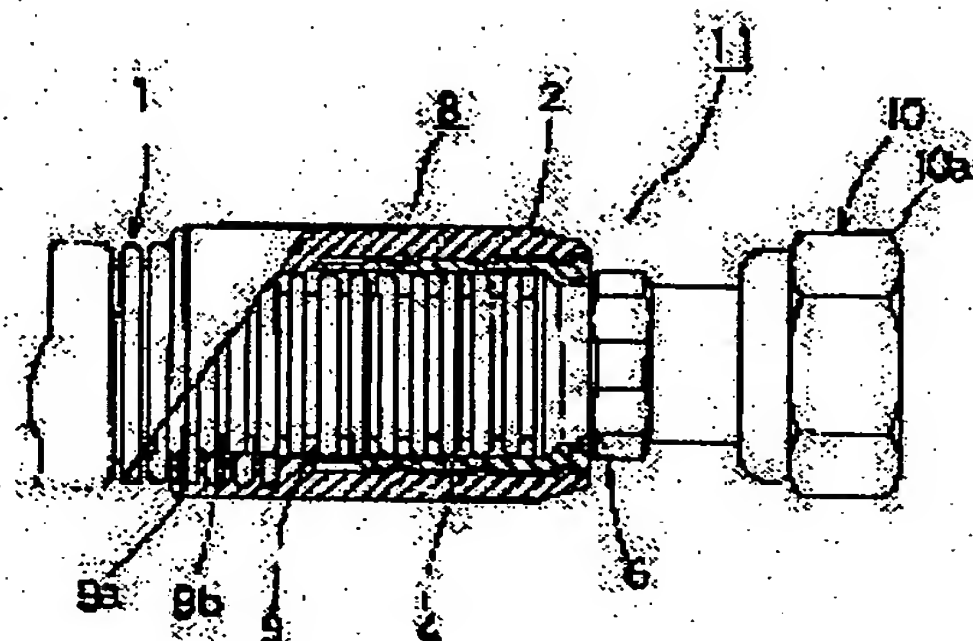
(72)Inventor : MISUMIDA ETSURO
GIOVANNI RAY

(54) PROTECTION COVER FOR FLEXIBLE TUBE FITTING PROVIDED WITH IT

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To surely protect a flexible tube by arranging a flexible cover main body which is fitted around the flexible tube with its end part, fixed around a cylindrical body.

SOLUTION: In installation of a protection cover 8 to a flexible tube 9, a cylindrical body 4 is fitted around one end part of the flexible tube 9, firstly. As the cylindrical body 4 is constructed of two-piece half bodies, it can be fitted around the flexible tube 9 with ease. Then, the flexible tube 9 is inserted into a cover main body 1 of the protection cover 8 from the other end part side of the flexible tube 9, and one end part of the cover main body 1 is fitted around the cylindrical body 4. In this way, a projection part in a fitting part of the cover main body 1 is fitted in a recess groove of the cylindrical body 4, and as a result, the protection cover main body 1 and the cylindrical body 4 are integrated together.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (JP) (12) 公開特許公報 (A) (11) 特許出願公開番号

特開平10-238689

(43) 公開日 平成10年(1998) 9月8日

(51) IntCl.⁵ 識別記号

F 1 6 L 57/00

F I
F 1 6 L 57/00 A

(21) 出願番号 特願平9-44184

(22) 出願日 平成9年(1997) 2月27日

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 5 頁)

(71) 出願人 391054165

トーフレ株式会社
大阪府大阪市北区東天満2丁目2番17号

(71) 出願人 597027836

エミツレックス ソチエタ ペル アチオ
ニ
イタリヤ国 20039 (エムアチ) ヴァ
レート ヴィア クネオ 4/6

(72) 発明者 三隅田 悦朗

大阪市北区東天満2丁目2番17号 トーフレ株式会社内

(74) 代理人 井連士 藤本 昇

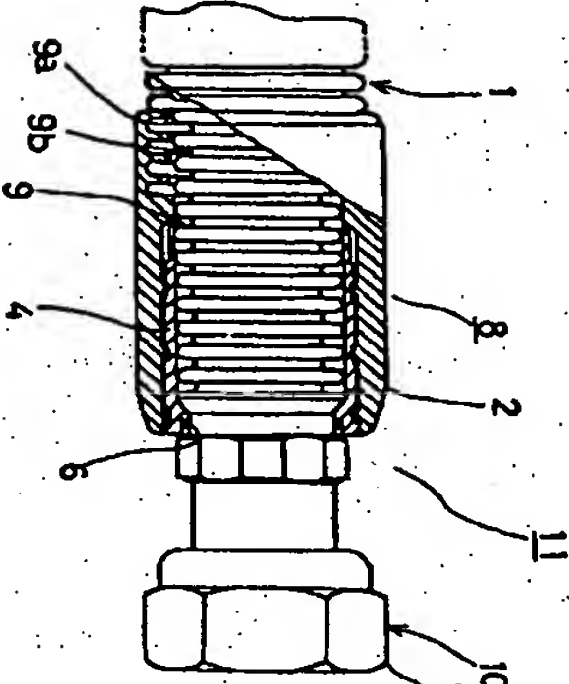
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 フレキシブルチューブ用保護カバーとこれを備えた継手管

(57) 【要約】

【課題】 フレキシブルチューブを確実に保護すること
のできる安価で且つ製作容易な保護手段の提供を課題とする。

【解決手段】 フレキシブルチューブ9を外嵌被覆するための保護カバーであって、フレキシブルチューブ9の端部に外嵌着され且つ管軸方向に複数に分割可能な筒状体4と、前記フレキシブルチューブ9に外嵌着されて端部が前記筒状体4に外嵌固定される可撓性を備えたカバー本体1とからなることを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 フレキシブルチューブ(9)を外嵌被覆するための保護カバーであって、フレキシブルチューブ(9)の端部に外嵌着され且つ管軸方向に複数に分割可能な筒状体(4)と、前記フレキシブルチューブ(9)に外嵌着されて端部が前記筒状体(4)に外嵌固定される可撓性を備えたカバー本体(1)とからなることを特徴とするフレキシブルチューブ用保護カバー。

【請求項2】 前記筒状体(4)が端部側程拡張するように形成され且つ外周面に凹溝(5)が周方向に設けられると共に、該凹溝(5)に嵌合可能な凸部(3)がカバー本体(1)の内周面に形成され、しかも該カバー本体(1)は難燃性樹脂からなる請求項1記載のフレキシブルチューブ用保護カバー。

【請求項3】 フレキシブルチューブ(9)と、該フレキシブルチューブ(9)に外嵌被覆するための保護カバー(8)とからなり、しかも該保護カバー(8)は、前記フレキシブルチューブ(9)の端部に外嵌着され且つ管軸方向に複数に分割可能な筒状体(4)と、前記フレキシブルチューブ(9)に外嵌着されて端部が前記筒状体(4)に外嵌固定される可撓性を備えたカバー本体(1)とからなることを特徴とする継手管。

【請求項4】 前記保護カバー(8)の筒状体(4)が端部側程拡張するように形成され且つ外周面に凹溝(5)が周方向に設けられると共に、該凹溝(5)に嵌合可能な凸部(3)がカバー本体(1)の内周面に形成され、しかも該カバー本体(1)は難燃性樹脂からなる請求項3記載の継手管。

【発明の詳細な説明】

【0001】
【発明の属する技術分野】 本発明は、各種配管に適用されるフレキシブルチューブを外嵌被覆するための保護カバーと、該保護カバーを備えた継手管に関する。

【0002】
【従来の技術】 従来、この種の管継手としては、例えば図5に示すようなものが存在する。

【0003】 即ち、この従来のものは、金属製フレキシブルチューブ9cに金属線又はガラス繊維等を編組したブレード12を外嵌せしめ、その端部を一封の固定リング13で挟持してフレキシブルチューブ9cに固定したものである。

【0004】
【発明が解決しようとする課題】 ところで、前記ブレード12は流体流通時に於けるフレキシブルチューブ9cの管軸方向への不当な伸長を防止すると共に、被覆保護する等のために該フレキシブルチューブ9cに外嵌着されるものであるが、金属線等を編組したブレード12は非常に高価であるため、継手管の製作コストが増大してしまうという難点を有するばかりではなく、ブレード12を介して内部に水等が侵入してフレキシブルチューブ9cに腐等の腐

食を生ぜしめるという問題点があった。
【0005】 また、ブレード12のフレキシブルチューブ9cへの固定は一封の固定リング13により行われるが、かかる固定作業には専用機を要する等、一連の作業が非常に煩雑であるという製作上の不都合も有していたのである。

【0006】 それ故に、本発明は上記従来の課題を解決するためになされたものであり、フレキシブルチューブを確実に保護することのできる安価で且つ製作容易な保護手段の提供を課題とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】 即ち、上記課題を解決するために本発明が採った手段は、フレキシブルチューブ9を外嵌被覆するための保護カバーであって、フレキシブルチューブ9の端部に外嵌着され且つ管軸方向に複数に分割可能な筒状体4と、前記フレキシブルチューブ9に外嵌着されて端部が前記筒状体4に外嵌固定される可撓性を備えたカバー本体1とからなる点にある。

【0008】 また、本発明に係る継手管の発明特定事項は、フレキシブルチューブ9と、該フレキシブルチューブ9に外嵌被覆するための保護カバー8とからなり、しかも該保護カバー8は、前記フレキシブルチューブ9の端部に外嵌着され且つ管軸方向に複数に分割可能な筒状体4と、前記フレキシブルチューブ9に外嵌着されて端部が前記筒状体4に外嵌固定される可撓性を備えたカバー本体1とからなる点にある。

【0009】 従って、上記発明特定事項からなる保護カバーをフレキシブルチューブ9に装着する場合は、例えばフレキシブルチューブ9の一端部に筒状体4を外嵌着した状態で、フレキシブルチューブ9の他端部からカバー本体1に挿通して前記筒状体4に外嵌固定した後、フレキシブルチューブ9を収縮させた状態で、フレキシブルチューブ9の他端部に筒状体4を外嵌着せしめ、フレキシブルチューブ9を伸長させてその他端部を前記筒状体4に外嵌固定すればよい。

【0010】 このようにして製作された継手管は、例えばニッパルや袋ナット等の継手を介して配管されることになる。

【0011】

【発明の実施の形態】 以下、本発明に係る保護カバーの実施形態について図面に従って説明する。

【0012】 図1に於いて、1は山部1aと谷部1bとを交互に多数連続した可撓性を有する伸縮自在なカバー本体を示し、難燃性樹脂からなるカバー本体1の端部を構成するゴム製の固定部2の内周面には、同図(9)の如く所定間隔を有して数条の凸部3が周方向に突設されている。尚、固定部2の内周面は一端部側程拡張するように形成している。

【0013】 図2中、4は管軸方向に二分割された半割体4aからなる樹脂製の筒状体で、その外周面は一端部側

程並徑するように形成され、且つ前記カバー本体1の凸部3が嵌合可能な複数の凹溝5が周方向に設けられると共に、一端側内周面にはオリシング6を装着可能なリシグ溝7が形成されている。

【0014】本実施形態に係る保護カバー8は以上のような各部材からなり、次のようなフレキシブルチューブ9を外嵌被覆すべく使用される。

【0015】即ち、かかるフレキシブルチューブ9は図3のように薄肉状のスチレンス鋼からなり、山部9aと谷部9bとが交互に多数連続され、且つその両端部には先端に袋ナット10aを有する継手10が夫々取付けられている。

【0016】そして、フレキシブルチューブ9に保護カバー8を装着する場合は、図3の如く先ずフレキシブルチューブ9の一端部に筒状体4を外嵌着するのであるが、かかる筒状体4は二分割された半割体4aからなるために、容易にフレキシブルチューブ9に外嵌できる。

【0017】次に、フレキシブルチューブ9を他端部側から保護カバー8のカバー本体1に挿通し、該カバー本体1の一端部を前記筒状体4に外嵌する。これにより、筒状体4の凹溝5にカバー本体1の固定部2の凸部3が嵌合して保護カバー本体1と筒状体4とが一体化される。

【0018】この場合、カバー本体1の固定部2の内周面は一端部側程並徑するように形成され、且つ筒状体4の外周面は一端部側程並徑するように形成されてなるため、カバー本体1の筒状体4への装着作業の便に供することとなる。

【0019】その後、カバー本体1を収縮させた状態で、筒状体4をフレキシブルチューブ9の他端部に外嵌着せしめ、カバー本体1を伸張させてその固定部2を筒状体4に外嵌させると、上述したと同様にしてカバー本体1が筒状体4を介してフレキシブルチューブ9に固定され、これにより図4のように継手管11の製作が完了する。

【0020】而して、かかる一連の作業は非常に簡易なものであるため、手作業でも確実且つ迅速に行うことができる。

【0021】この場合に於いて、カバー本体1の長さをフレキシブルチューブ9のそれよりも少し短寸に形成しておくこと、フレキシブルチューブ9を収縮せしめた状態で保護カバー8に外嵌されることになる。即ち、保護カバー8によりフレキシブルチューブ9は収縮力を受けるため、不当な伸張が阻止されることとなり、従来のフレードと同様の機能を発揮する。

【0022】また、保護カバー8のカバー本体1は可撓性を有するために、フレキシブルチューブ9の可撓性が損なわれることはなく、その可撓性もフレードを使用する場合に比して良好に維持されることとなる。

【0023】さらに、カバー本体1は難燃性樹脂からな

るために、その製作が安面で且つ容易に行えるのは勿論、例えば溶接作業時に飛散したスパッタがカバー本体1上に落下付着したとしてもフレキシブルチューブ9に損傷を与えることなく保護される。

【0024】また、継手管11が収付金具やその他の金属配管等と接触して配管される場合もあるが、上記の如くカバー本体1は樹脂製であるため、電食が発生するというようなことはないのである。

【0025】さらに、保護カバー8により内部への水等の侵入は阻止されるため、フレキシブルチューブ9に腐等の腐食を生ぜしめるということもない。

【0026】即ち、本実施形態に係る保護カバー8はフレキシブルチューブ9の保護手段としては最適なものである。

【0027】そして、かかる継手管11はその継手10の袋ナット10aを介して配管系に組込んで使用されるが、長期に亘って良好な接続状態が維持し得ることになる。

【0028】尚、上記実施形態に於いては、筒状体4を二分割した半割体4aで構成したが、それ以上に分割しても構わない。

【0029】また、カバー本体1や筒状体4の具体的な素材は決して上記実施形態に限定されるものではない。

【0030】さらに、本発明に係る継手管11は、各種配管系の継手管として幅広く使用することが可能である。

【0031】その他、カバー本体1や筒状体4の形状も本発明の意図する範囲内に於いて任意に設計変更自在である。

【0032】

【発明の効果】 叙上のように、本発明に係る保護カバーはその筒状体をフレキシブルチューブの端部に外嵌着した状態で、筒状体4にカバー本体1を外嵌固定すれば装着できるため、手作業による装着も可能となり、フレキシブルチューブの保護手段としてフレードを使用する従来のものに比して、その製作が非常に簡易に行えるという格別の効果を得るに至った。

【0033】また、フレキシブルチューブは保護カバーにより外嵌被覆されて良好に保護されるのである。

【0034】さらに、難燃性樹脂からなる保護カバーを使用した請求項2及び請求項4に係る発明にあっては、従来の金属製フレードよりも製作費を大幅に削減できると共に、内部への水等の侵入を阻止することも可能となり、フレキシブルチューブに腐等の腐食を生ぜしめることはなく、電食の発生も防止できるという特有の効果奏する。

【0035】即ち、本発明に係る保護カバーは、この種のフレキシブルチューブの保護手段としては最適なものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の保護カバーの一実施形態を示し、(1)は正面図、(v)は一部断面を含む要部拡大正面図。

【図2】同筒状体の一実施形態を示し、(1)は断面図、(v)は側面図。

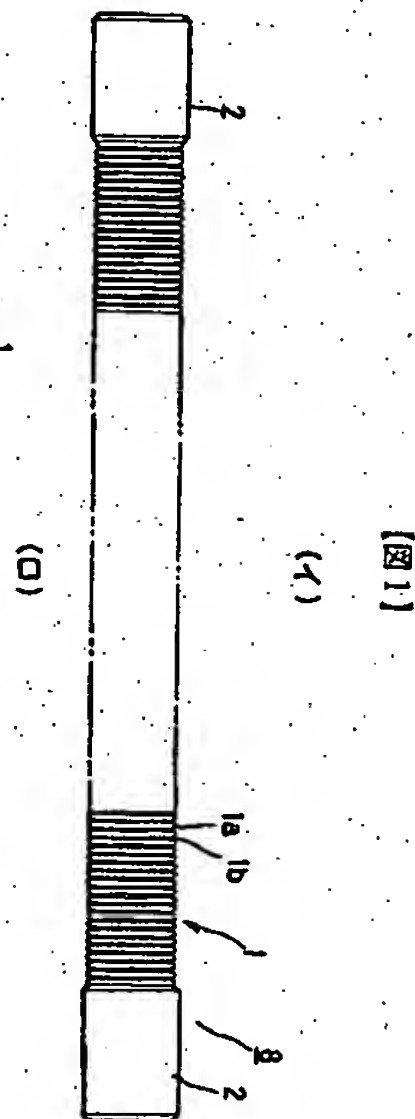
【図3】同継手管の一部断面を含む要部拡大正面図。

【図4】同継手管の一部を切欠いた正面図。

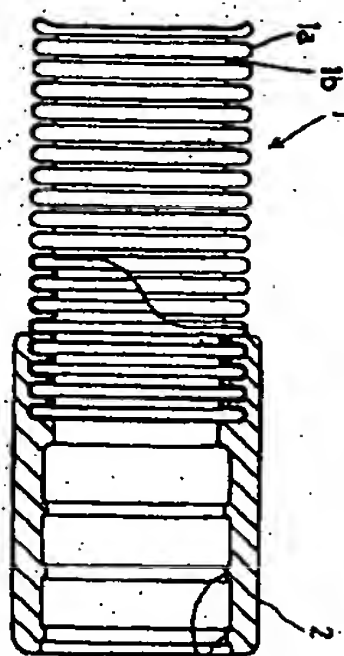
【図5】従来例を示す管継手の半載断面図。

【符号の説明】

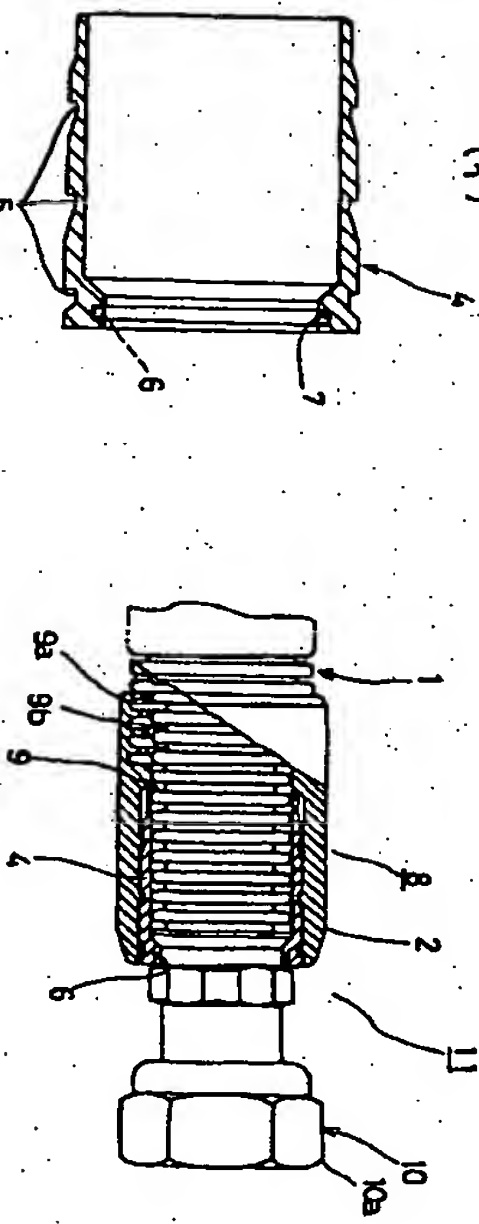
- 1...カバー本体
- 3...凸部
- 4...筒状体
- 5...凹溝
- 8...保護カバー
- 9...フレキシブルチューブ



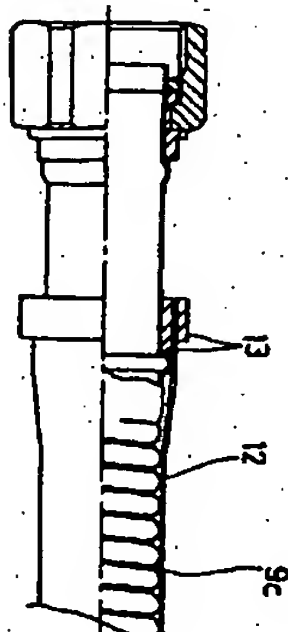
【図1】



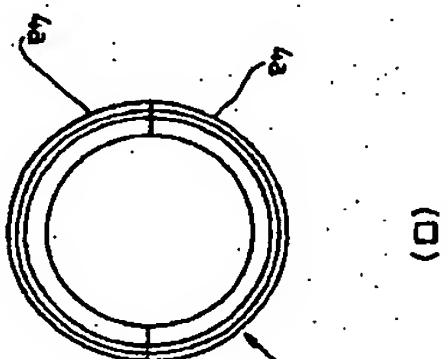
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

(5)

特開平10-238689

【図4】



フロントページの接ぎ

(72) 発明者 ジョヴァンニ・ライ
イタリヤ国 20039 (エム74) サ
レード ヴィア クネネ 4/6 エミ
レックス ソチエタ ヘル アチネニ内